

アイススケート部日本一

経大スポーツ

経大

発行: スポーツ文化振興室

全員で掴んだ栄冠

日本学生ショートトラックスピードスケート選手権大会で本学アイススケート部が念願の日本一を達成した。本学の体育会系クラブが、団体での日本一獲得は平成七年の準硬式野球部以来の快挙となる。

10月22日から23日に長野県南牧村で開催された第34回日本学生ショートトラックスピードスケート選手権大会で本学アイススケート部が念願の日本一に輝いた。本学の体育会系クラブが団体で日本一になったのは平成七年の準硬式野球部以来。アイススケート部は近年、個人では、現エースの上



村翔太（経営3年）の実兄である上村大輔選手がワールドカップ、世界ジュニア、ユニバーシアード等の世界レベル大会での好成績を残しているが、団体としては、今回、創部以来初めてとなる全国制覇を成し遂げた。この日のレースでは、最初の種目五百メートルで坂本侑馬（経営1年）が

3位、上村翔太が5位に入賞と順調に滑り出した後、続く千メートルでは坂本が2位、上村が5位。更に千五百メートルでも吉川政志（経営2年）が2位、真木倫志（経営2年）が8位。三千メートルでも吉川が1位、真木が5位と着々とポイントを重ねた。そして各大学がエース級をそろえる最後の決勝である五千メートルリレーでは、上村・真木・吉川・坂本の本学最強メンバーで2位以下を大きく引き離し

日本拳法部 羽室賢一 全日本学生選手権ベスト8

10月30日に名古屋市枇杷島スポーツセンターで開催された全日本学生拳法個人選手権大会で本学日一（経）の羽室賢一（経4年）がベスト8進出を成し遂げた。当初は2回戦進出を目標にしていたとのことだったが、1回戦で元高校チャンピオンと対戦し、互いに面突きで一本ずつを取



（試合後に友人と。左が羽室）

剣道部 中島陵太 全国学生選手権ベスト16

7月3日に大阪府立体育館で開催された第59回全国学生剣道選手権大会で、本学剣道部の中島陵太（経営4年）がベスト16に輝いた。この記録は剣道部創部以来の快挙であり、創部50周年の区切り

の年に花を添えた。今大会に出場するにあたって中島自身、「調子も良くあまり緊張しなかった」

残すことが出来たのは大学の皆様のご支援と、日本拳法部の山本隆造総監督に親身に指導して頂いたおかげだと思っております。今後、時間も許せば、後輩を指導し、ご恩返しを出来ればと考えております。



（練習中の風景。左端が中島）

映画研究部 新井裕貴 学生国際映画祭第2位

芸術会系クラブも負けてように思います。在学中私も次の夢に向けて、邁進していきます。

井裕貴（経済4年）の作品で変える」という目標品が、学生国際ショートムービー映画祭で第2位に輝いた。新井は夏季閑した。今回の入賞は部に西シネック映画祭での優勝に引き続いての受賞となった。

・新井裕貴コメント 4年間、一生懸命取り組んできたことが報われた瞬間はとて嬉しかった



（作品制作中の新井）

たです。試合中も自分が出場しているつもりで応援しました。全員で勝ち取った優勝です。

そつである。心身ともに良い状態で迎えた初戦は難なくクリア。続く二回戦でも強豪との対戦になったが、持ち前の粘り強さを発揮して見事勝利し、三回戦へと駒を進めた。三回戦でも強豪との対戦になったがこの試合も無我夢中で攻め続け見事、勝利し目標としていた全

スポーツ文化振興室便り
昨年度、学生部に発足したスポーツ文化振興室では、積極的にクラブの学生のサポートを行っていきたくと考えております。努力した者が報われるように年三回の課外活動表彰や、勝ち抜きによる全国大会出場クラブへの壮行会を開催しました。年度末には全国大会で優秀な成績を残したクラブ・個人への祝賀会も予定しております。また新四年生の一番の心配事である就職活動に際して少しでもサポート出来るように就職課とタイアップして希望するクラブにはクラブ別就職ガイダンスを実施し、今年度よりスポーツ支援奨学金を創設しクラブ学生への経済的支援を開始しました。今後、まずは強化クラブからとなりませんが学業成績不振者に対して教務課と協力して個別面談等を行っていく予定です。今後も課外活動活性化に励みたいと思いますので皆様のご支援ご協力をよろしくお願い致します。

編集後記

少しでもクラブ学生の活躍を伝えたいとの思いから、スポーツ文化振興室より初めて経大スポーツを発刊しました。紙面の都合で掲載出来ませんでした。が、この他にも活躍したクラブもたくさんありました。今後も継続的に情報発信をしたいと思いますが、将来的には学生自ら新聞を作ってくれることを祈念しております。